

第5回リカジョ育成賞 -奨励賞-

テーマ	東日本大震災被災地における女子高生による環境問題へのチャレンジ
受賞者名	宮城学院中学校高等学校 溝上 豊
活動紹介	仙台での 2018 年から 2022 年までの 4 年間における女子環境教育の実践である。担当した生徒たちは、小学校低学年で東日本大震災を体験していた。その経験をいかした課題研究の実践を目指して活動を行った。最初に取り組んだのは「食用廃油の資源化」で、家庭や食品加工の過程で出る食用廃油を酵母に食べさせて新たなタンパク源にするものである。石油タンパクにヒントを得たもので、蔵王の山頂でスクリーニングした酵母が有用であることを発見した。食料危機は、人類が避けて通れない課題である。新たなタンパク質の創製には、価値があるものであると考えている。実現してくれる企業等が出てくれることを願っている。次に取り組んだのは、健全な環境のバロメーターとしてのトウホクサンショウウオの研究である。発見した繁殖地が、耕作放棄水田脇の水路であったためにトウホクサンショウウオの保護を通して耕作放棄地の自然再生を同時に目指すことにした。仙台市内を調査した結果、わずかに取り残された水辺にトウホクサンショウウオ、クロサンショウウオなどの両生類の産卵が確認できた。いずれも計画的な保護なくしては、今後の生息が難しそうな場所であった。2022 年現在、継続的な保護活動を行っている。半永久的な生息ができるような環境づくりを目指していきたい。
PR メッセージ	東日本大震災の経験者をした若者がつくる未来社会の実現を応援します。自然災害に強い社会の実現は喫緊の課題です。



JSEC2021 レポート

食料廃油の資源化～タンパク質危機の解決に向けて～
宮城学院女子学校高等学校

[illegible]

※この研究は SDGs（持続可能な開発目標）の1番「NO POVERTY（貧困をなくそう）」と2番「ZERO HUNGER（飢餓をゼロに）」に当てはまる活動である。
私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

关联内容

- 1. 講演の要約と内容
 - 食料由来の栄養利用効率のスクリーニング
 - ZAOの食料栄養成分解析能力向上
 - 飼料の付加
 - 栄養素の吸収率
- 2. 昨年度コンクールで評価された問題点とその改善
- 3. 今年度の取り組み

[illegible]